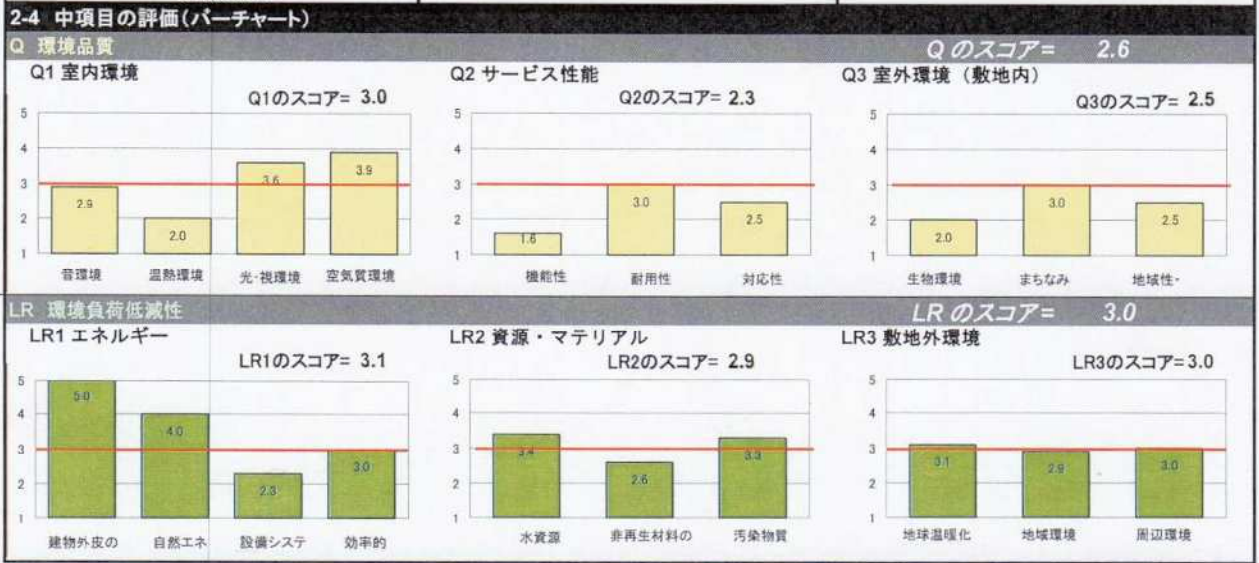


CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 (使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	社会福祉法人美光会(仮称)特別養護老人ホーム	階数	地上3F
建設地	さいたま市緑区美園二丁目16番1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年10月14日
敷地面積	2,838 m ²	作成者	山崎真信
建築面積	1,737 m ²	確認日	2021年10月15日
延床面積	4,057 m ²	確認者	高山次郎



3 設計上の配慮事項		
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。	その他 特になし
Q1 室内環境	昼光利用設備として光庭とトップライトを設けている。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし
Q2 サービス性能	給水PEP(B)、排水VP(B)、給湯SUS(C)、Eは不使用。	
LR1 エネルギー	BPI _m =0.68	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率95%
LR2 資源・マテリアル	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材等を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
 社会福祉法人兼光会(仮称)特別養護老人ホームみさき苑 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階			
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					2.6
Q1 室内環境			0.40		3.0
1 音環境		2.9	0.15	2.8	1.00
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40
1.2 遮音		3.8	0.40	3.6	0.40
1 開口部遮音性能	T-2を使用している。	5.0	0.40	5.0	0.30
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20
2 温熱環境		2.0	0.35	2.6	1.00
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30
3 光・視環境		3.6	0.25	3.3	1.00
3.1 昼光利用		4.6	0.30	4.2	0.30
1 昼光率	建物全体・共用部分2.5%≦[昼光率]、住居・宿泊部分1.25%≦[昼光率]	5.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口					
3 昼光利用設備	昼光利用設備が1種類ある。	4.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00
3.3 照度	診療室:全般照明方式の場合で、照度が500lx以上1000lx未満、待合室:50lx≦[照度]のレベル3を満たし、かつ壁面の鉛直面照度が100lx以上	4.0	0.15	3.0	0.15
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25
4 空気質環境		3.9	0.25	3.8	1.00
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が1/10以上			5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理		5.0	0.20		
1 CO ₂ の監視					
2 喫煙の制御	全館禁煙としている。	5.0	1.00		
Q2 サービス性能			0.30		2.3
1 機能性		1.6	0.40	4.0	1.00
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60
1 広さ・収納性	個室床面積10㎡以上で多床室の設置がないためレベル5。			5.0	1.00
2 高度情報通信設備対応					
3 バリアフリー計画		1.0	1.00		
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40
1 広さ感・景観	居室天井高2.6m			4.0	0.50
2 リフレッシュスペース					
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理		3.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水PEP(B)、排水VP(B)、給湯SUS(C)、Eは不使用。	5.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		
2.4 信頼性		3.0	0.20		
1 空調・換気設備		3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		
3 電気設備		3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5 通信・情報設備		3.0	0.20		

3 対応性・更新性			2.5	0.30	2.7	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり			1.6	0.30	2.4	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.68	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		光庭とトップライトを設けている。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.94	2.3	0.50	-	-	2.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を使用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGSを使用している。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が90未満)を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		LCO2排出率95%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 眩光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	